

公立義務教育諸学校の学級規模及び教職員配置の  
適正化に関する検討会議

# 秋田県における少人数学習の 取組及びその効果等について

平成23年7月1日  
秋田県教育委員会



# 1. 少人数学習推進事業の概要

# 平成23年度 少人数学習推進事業

## 趣旨

子どもの個性を生かし、子どもの多様性に  
応える教育活動を展開する

## 内容

### ① 小学校1年～3年及び中学校1年

#### ●30人程度学級の実施

→基本的な生活習慣・学習習慣の定着、安定した学校生活の確保  
いわゆる「小1プロブレム」「中1ギャップ」への対応など

### ② 小学校4年～6年及び中学校2・3年

#### ●20人程度の学習集団による少人数指導

→基礎学力の定着・向上

# 基本構想

33人(中1  
は34)以上  
の学級をもつ  
学年に少人数  
学習のための  
人的配置  
(県費)

- 30人程度の学級編制
- TT等での学習集団の少人数指導

	小学校1年
(H13~)	2年
	3年
国算理	4年
	5年
	6年
	中学校1年
数理英	(H14~) 2年
	3年

基本教科で  
20人程度の  
少人数指導が  
できるように人的  
配置  
(指導方法  
工夫改善定数)

※少人数指導...  
TT、習熟度別、  
コース別など

H23拡充

# Q 本県の少人数学級とは

①

1学級増とした場合、25人以上の学級を含む学年は1学級増

73人の学年の例

37人

36人

標準は2学級

25人

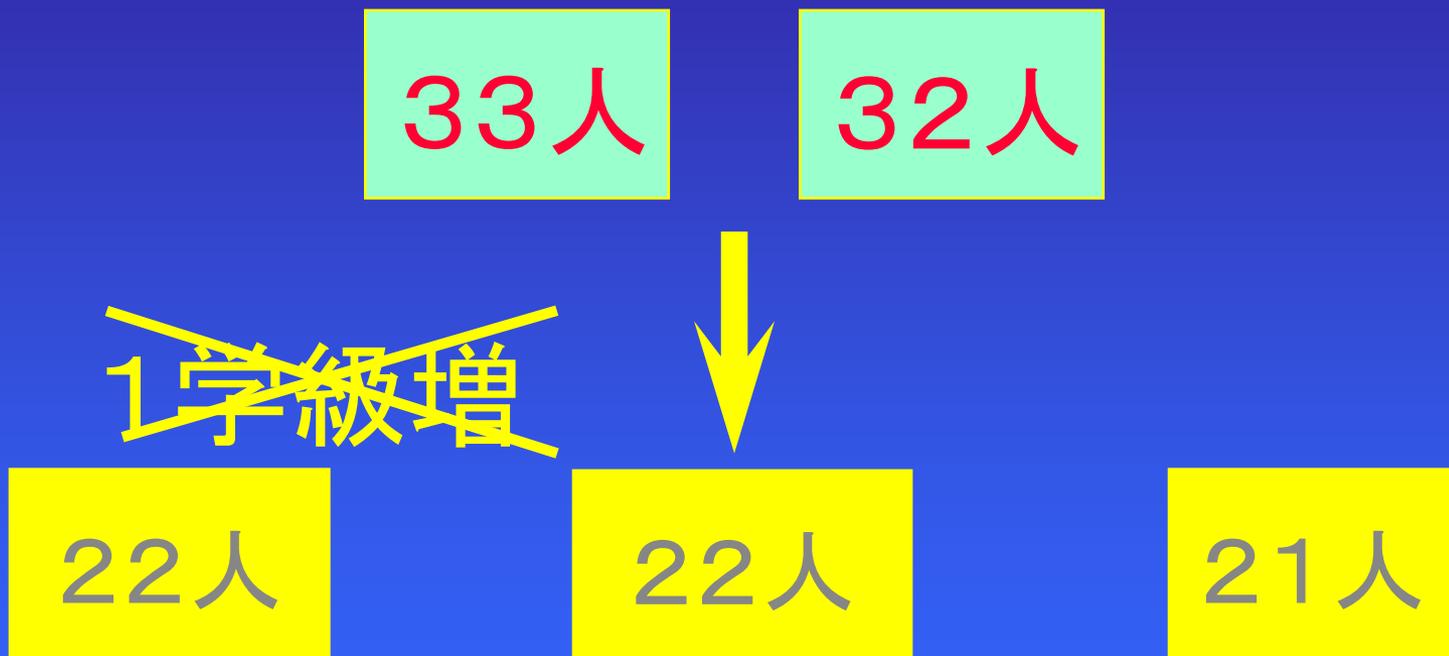
24人

24人

1学級増

②

1学級増とした場合、全ての学級が24人以下  
で元学級に1つでも33人以上の学級がある場  
合(中学校は34人)



学級増の代わりに、少人数指導ができるよう、学年に非常  
勤講師を配置(小1・2、中1)  
単級でも同様に非常勤講師を配置

# 1. 人員配置について

対象	1学級増	2学級増	少人数指導
小学校1・2年	加配1名	加配2名	非常勤講師1名
小学校3年	加配1名	加配2名	
中学校1年	非常勤講師1名	加配2名	非常勤講師1名

# 2. 予算規模について

11年間の累計**68.4億円**の県費投入

年度	講師	非常勤講師	増加学級数	予算額（円）
22	42	100	82	3億9428万
23	40	95	86	3億8930万

県の政策経費20%減の中、小3拡充分を含め前年度と同等の額を確保

参考：1学級あたり平均児童生徒数 小学校24.3人 中学校30人

# 小学3年への30人程度学級の拡充の理由

国の小学1年の35人以下学級実現に伴い、県費の少人数学級について、単に国費に付け替えるのではなく、「次の一手」として、教育条件の改善につなげる。

## なぜ小学3年か

- 平成23年度から小学校の新学習指導要領が全面実施  
\* 特に、小学3年は高学年へ進むための基礎づくりが最も必要な学年
- ギャングエイジへの対応（集団規律や規範意識の醸成のため配慮が必要）
- 教育条件の維持・向上のため、まずは重点的に小3に拡充し、更なる改善を検討

## 2. 指導方法の工夫改善について

# 学習状況調査事業

H14～（悉皆）

2,379千円（H23）

## 趣旨

少人数学習の成果や課題の把握・検証

県内の児童生徒の学習状況の把握・検証

各学校における教育・指導の改善・充実

児童生徒の  
学力・学習意欲等  
に関する調査の実施

実施時期 毎年12月上旬

対象 小学校第4・5・6学年  
中学校第1・2学年

調査内容 ○ 学力調査 小学校 国語・社会・算数・理科  
中学校 国語・社会・数学・理科・英語  
○ 学習意欲等の調査

義務教育の質の保証のための客観的データを確保

# 1. 秋田県総合教育センターの研究から(H16)

## 少人数指導7つの課題

- ①意義を十分にとらえる必要
- ②指導者間連携や校内体制の確立
- ③効果的な教材の準備
- ④児童生徒や保護者への説明責任
- ⑤効果的な学習集団の編成
- ⑥年間指導計画での位置付け
- ⑦評価

## 2. 研修について

年 度	講 座 名
H 1 4 ~ 1 8	・算数・数学におけるT T指導法
H 1 9 ・ 2 0	・楽しさと充実感のある算数的活動 ・数学的な見方や考え方を育てる指導

# 少人数指導充実のための取組

- ・ 計画書の作成と提出  
～実施体制と確立、目標設定～
- ・ 報告書の作成と提出  
～実践の成果確認～
- ・ 県教育委員会の加配校訪問  
～実践チェック、充実のための支援～
- ・ 「チェックポイント」の活用(右欄)  
～実践の充実、研修の推進～
- ・ 実践事例集作成(H14～18)  
～優れた実践の紹介、参考資料～
- ・ 加配措置の改善(H17～)  
～県の裁量から市町村の裁量へ～

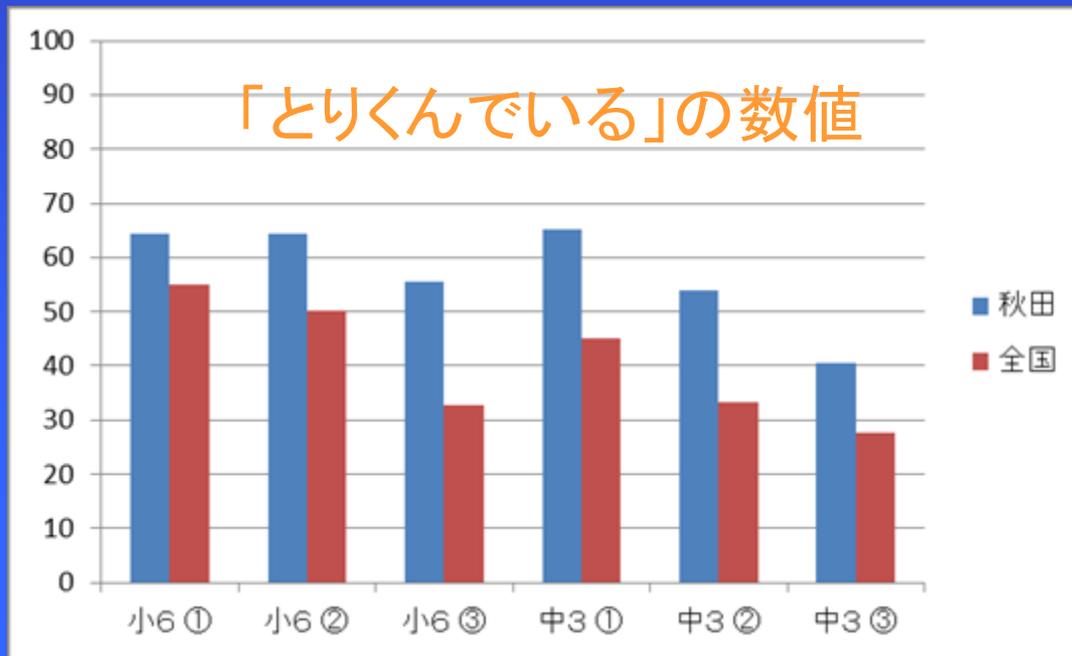
少人数学習推進のための チェックポイント ～チームティーチング(TT)・少人数指導の充実を目指して～		
<b>I 児童生徒の姿をチェック !!</b> (1 いいえ ←→ 4 はい)		
1	児童生徒一人一人がめあてをもって、生き生きと学習に取り組んでいる。	1 — 2 — 3 — 4
2	児童生徒一人一人が自ら、疑問や課題の解決を目指して追究している。	1 — 2 — 3 — 4
3	児童生徒一人一人が学習に充実感や「分かる」手ごたえを感じている。	1 — 2 — 3 — 4
<b>II - ① 授業をチェック !! (TT)</b> (1 いいえ ←→ 4 はい)		
1	学習形態が学習の流れに合っている。 ◇一言、個別、グループ、コース分け等の選択が、指導や学習の流れとスマッチになっていませんか？	1 — 2 — 3 — 4
2	互いの役割分担を明確にして指導を行っている。 ◇複数の教師ばかりが動いて、児童生徒の学習活動が活発に行われぬ授業になっていませんか？ ◇互いの役割分担が不明確で、一体感のない授業になっていませんか？ ◇二人で指導している場合と大差のない授業になっていませんか？ ◇どちらか一方で動いているだけになっていませんか？ ◇個別指導中心で、工夫のない授業になっていませんか？ ◇TTが特定の児童生徒につきっきりになっているだけの授業になっていませんか？	1 — 2 — 3 — 4
3	児童生徒の実態に応じて授業が行われている。 ◇児童生徒の状況に柔軟に対応できない授業になっていませんか？	1 — 2 — 3 — 4
4	仲間指導は明確な視点をもって行っている。 ◇仲間指導の視点が不明確で、行き当たりハッパりの指導になっていませんか？	1 — 2 — 3 — 4
<b>II - ② 授業をチェック !! (少人数指導)</b> (1 いいえ ←→ 4 はい)		
1	学習形態が学習の流れに合っている。 ◇一言、個別、グループ、コース分け等の選択が、指導や学習の流れとスマッチになっていませんか？	1 — 2 — 3 — 4
2	少人数のよさを生かした授業が行われている。 ◇集団を小分けにしたが、教師主導の一斉授業が中心で、一人一人にきめ細かな配慮が見られない授業になっていませんか？ ◇集団を小分けにしての個別指導が中心で、工夫のない授業になっていませんか？	1 — 2 — 3 — 4
3	どのコースでも充実した学習となるように、打合せや連携ができています。 ◇集団を小分けにしただけで、同じことをやっている授業になっていませんか？ ◇教師間の連携が十分でなく、コース間で学習の充実度にはばらつきが見られる授業になっていませんか？	1 — 2 — 3 — 4
4	児童生徒の実態や指導のわらいにに応じて指導計画を立てている。 ◇集団を小分けにしただけで、分けたわらいが不明確になっていませんか？ ◇児童生徒の状況に応じて、当初の計画を柔軟に変えられない授業になっていませんか？	1 — 2 — 3 — 4
<b>III 学校の取り組みをチェック !!</b> (1 いいえ ←→ 4 はい)		
1	目指す児童生徒像をもち、明確な目的の下で少人数学習を実施している。	1 — 2 — 3 — 4
2	児童生徒の希望や学習状況を適切に把握し、少人数学習を実施している。	1 — 2 — 3 — 4
3	必要に応じて少人数学習を実施できる校内体制が整っている。	1 — 2 — 3 — 4
4	効果的な実践について、学年や教科の枠を超えて研修を行っている。	1 — 2 — 3 — 4
5	継続的に実施状況を評価し、授業改善に生かしている。	1 — 2 — 3 — 4

# 教職員集団の共同的な研究体制

チームで仕事をする！

H22全国学力調査より

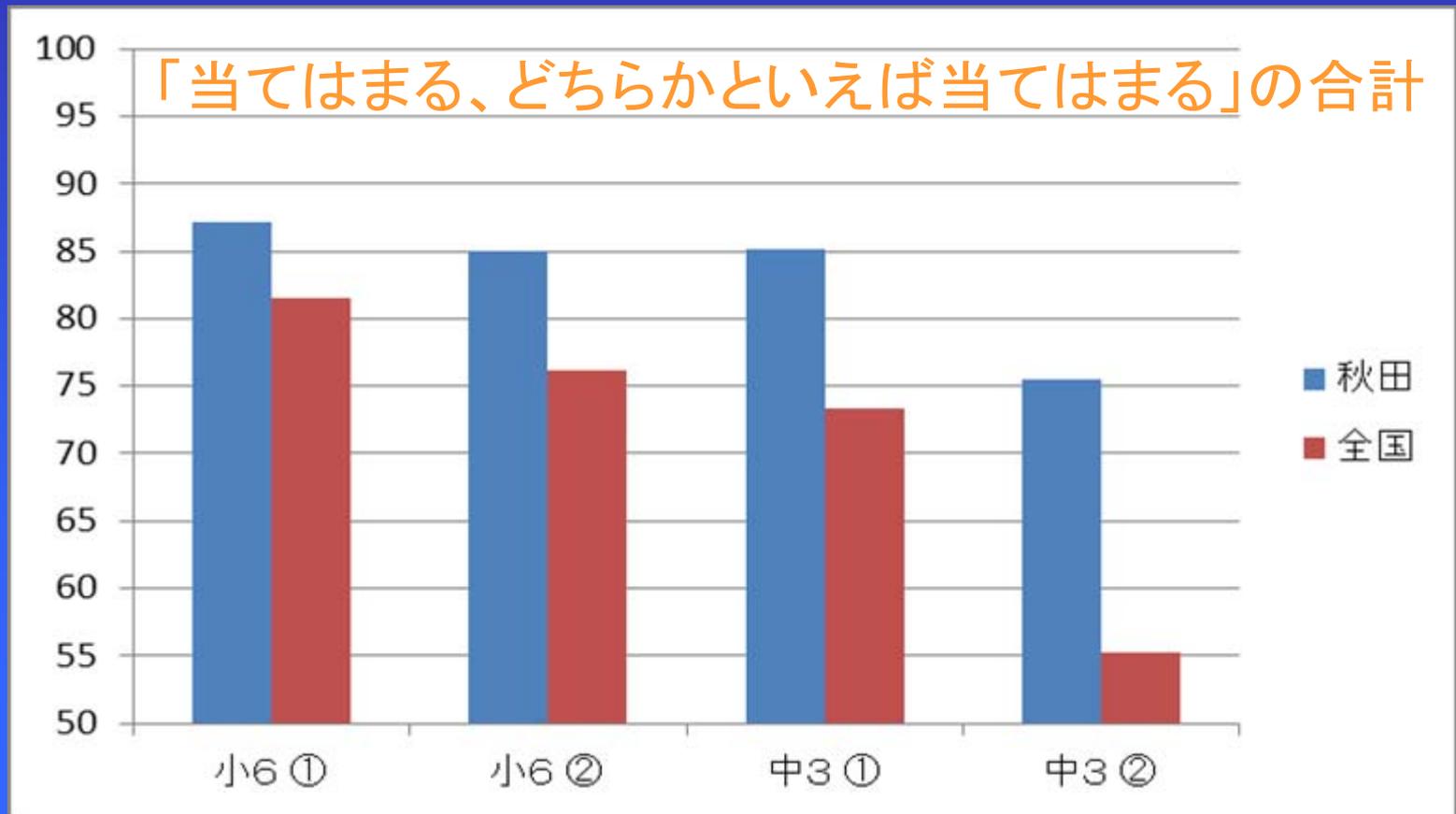
- ① 学校の教育目標を全教職員で共有し、取り組んでいる。
- ② 指導計画の作成にあたっては、教職員同士が協力し合っている。
- ③ 国語で、家庭学習の与え方について、校内の教職員で共通理解を図っている。



# 授業における秋田県の子ども

H22全国学力調査より

- ①自分の考えを発表する機会が与えられている
- ②学級の友達の間で話し合う活動をよく行っている

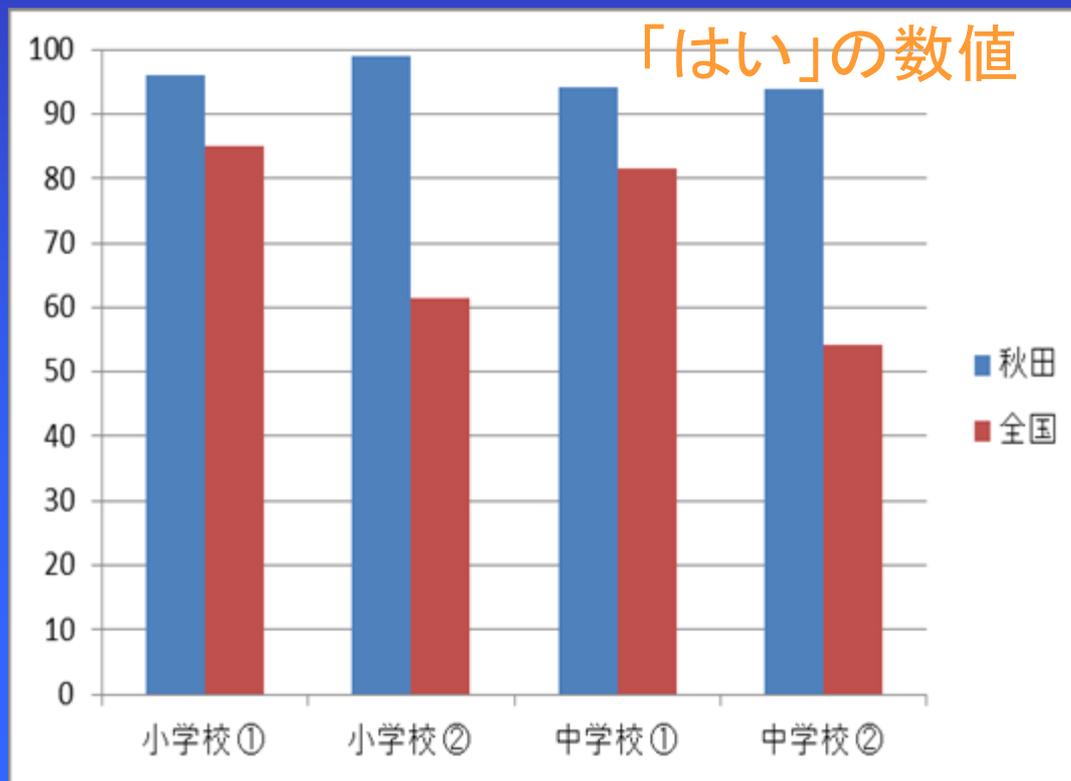


# 全国学力調査を活用

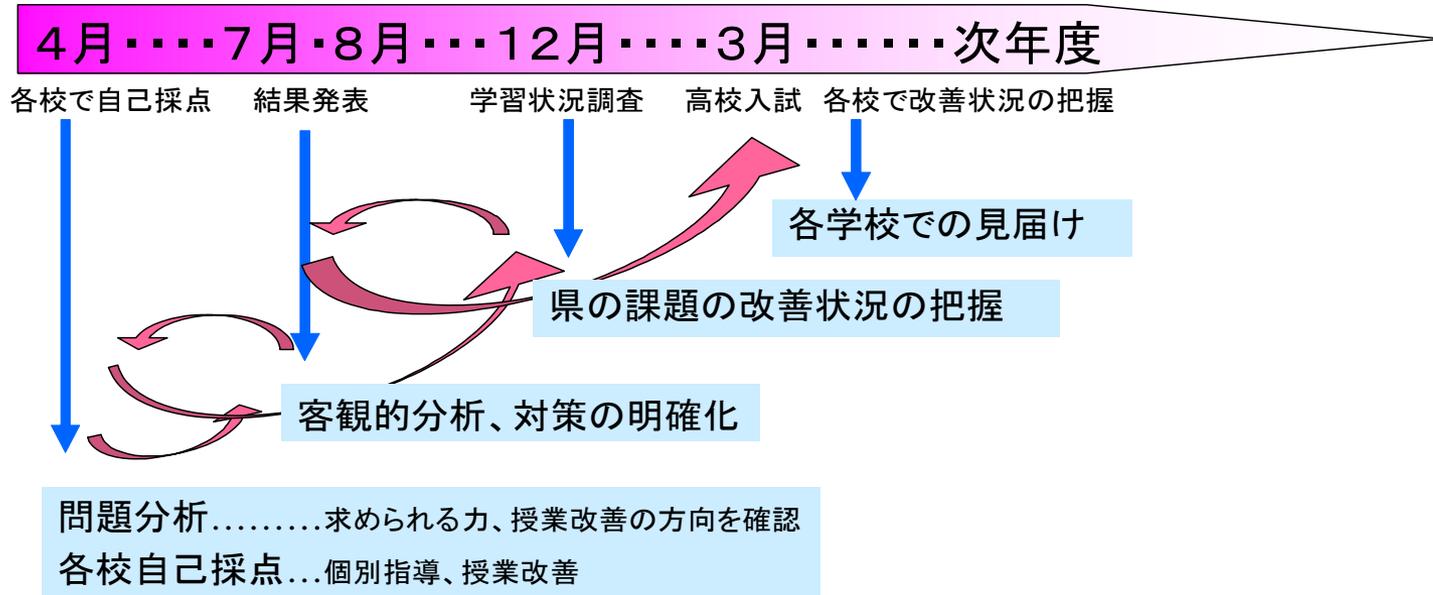
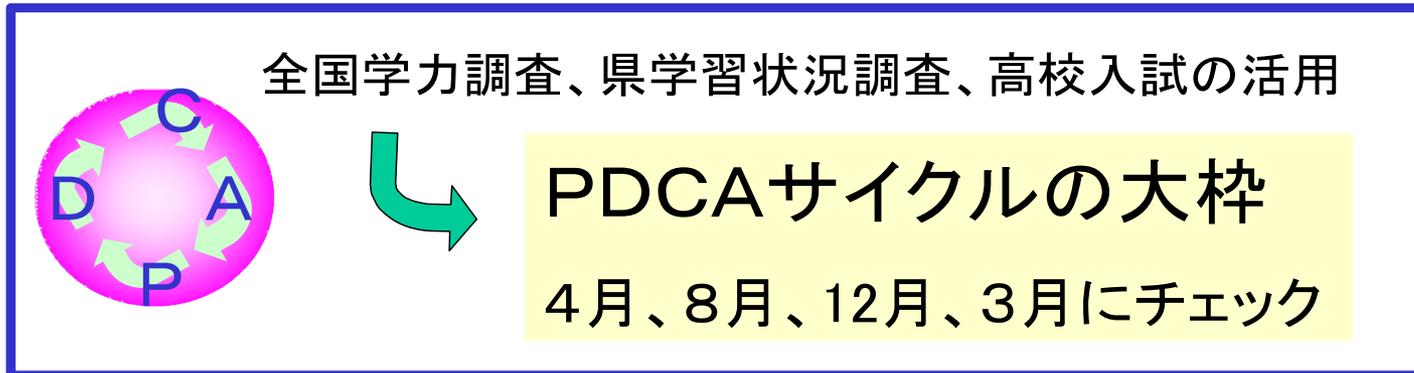
授業改善

H22全国学力調査より

- ① H21全国学力・学習状況調査の自校の結果を学校全体で活用しましたか。
- ② H21全国学力・学習状況調査の調査問題を授業の中で活用しましたか。



# 国・県の学力調査及び高校入試を一体としてとらえた検証改善サイクルの確立 (平成22年度)



# 一人一人の学力を伸ばすあきたの学校 ～5つのエッセンス～

- 新学習指導要領が求める思考力・判断力・表現力の育成に対応
- 教職員の共同研究を重視

一 学校体制でP D C Aサイクルの確立

二 全ての子どもたちが積極的に  
授業に参加できる学校空間

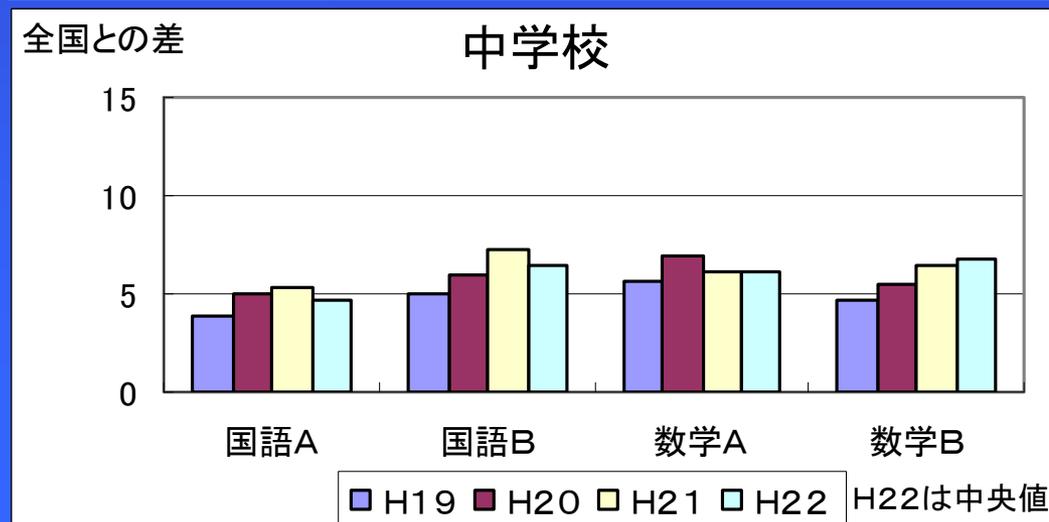
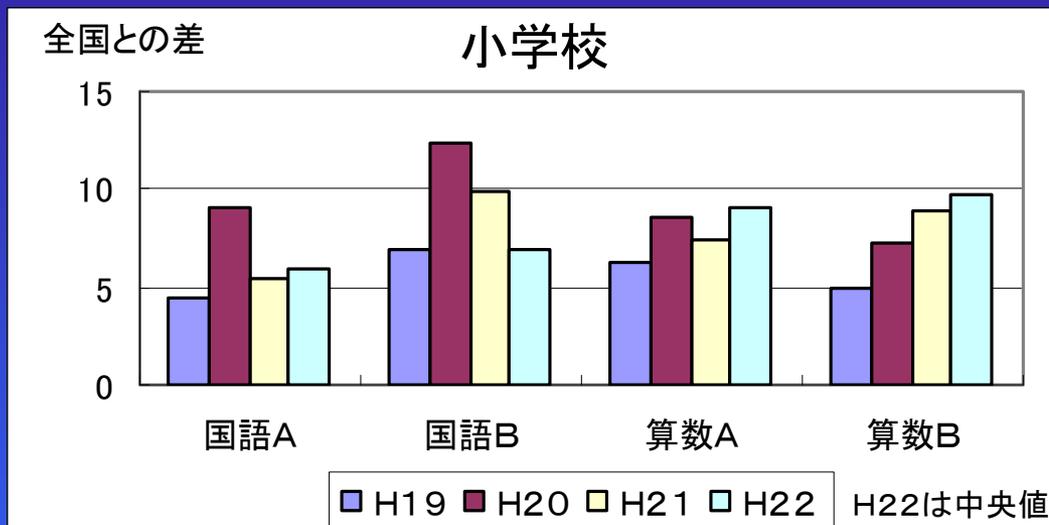
三 子どもたちの思考を促し  
深める授業づくり

四 自発的学習を生み出すきめ細かな指導

五 豊かな教育力を生む  
学校・家庭・地域の強い連携

### 3. 少人数学習の効果について

# ○全国学力・学習状況調査結果から

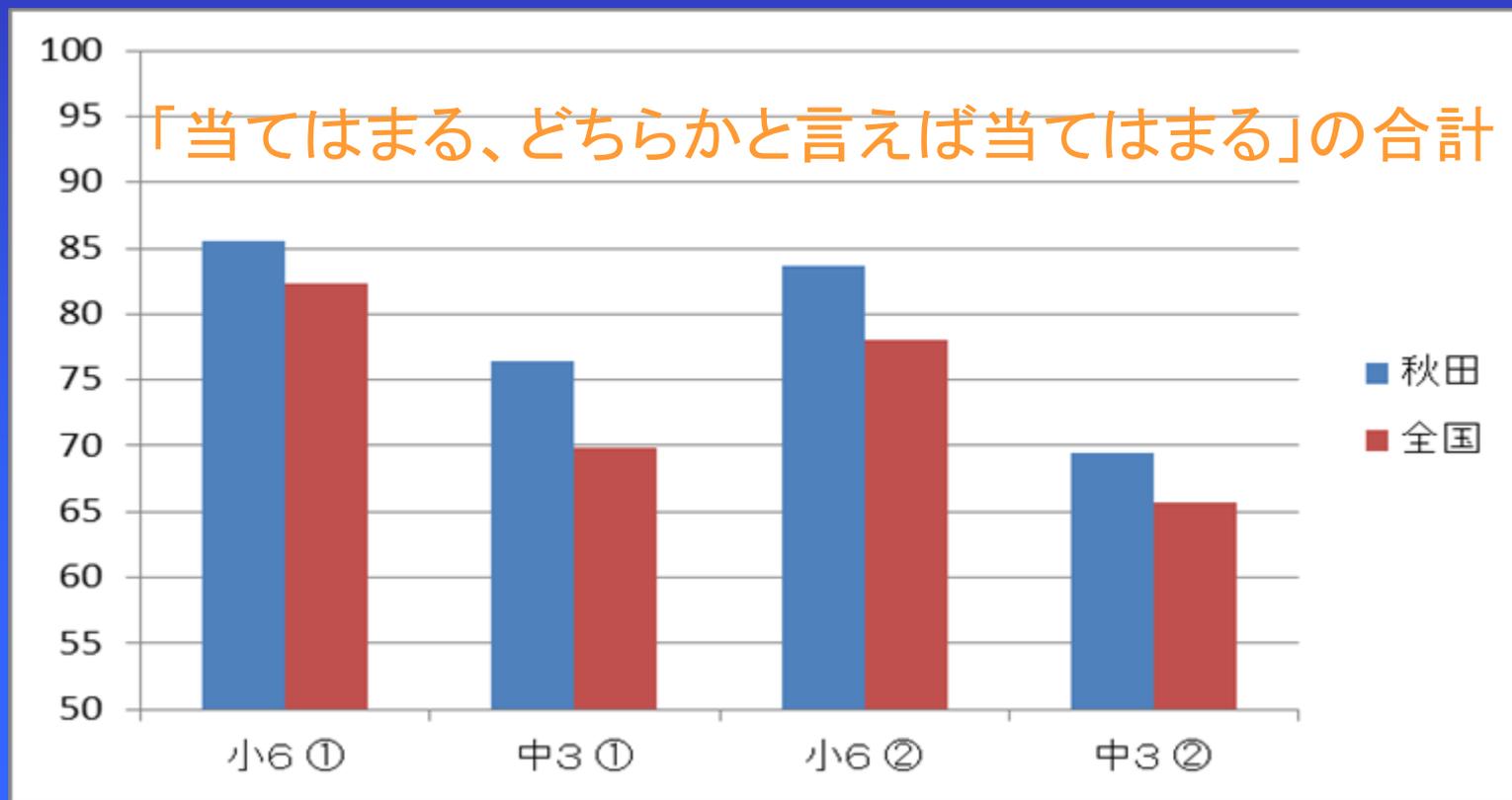


- 全国平均との差は、小学校で5ポイント、中学校で4ポイント以上、上回る（H22）
- B問題は、全国平均を大きく上回る傾向
- 小・中学校ともに標準偏差が全国平均以下
- 無解答率は、すべての問題で全国平均以下

# H22全国学テ 児童生徒質問紙より

①: 国語の授業はよく分かりますか。

②: 算・数の授業はよく分かりますか。



# 学習状況の経年比較①

算数・数学

加法と乗法の混合した計算(小学校4年)

H12

56.2%

問題

$$100 - 30 \times 3 \quad (\text{県})$$



H17

76.8%

問題

$$16 + 4 \times 5 \quad (\text{県})$$



H22

93.7%

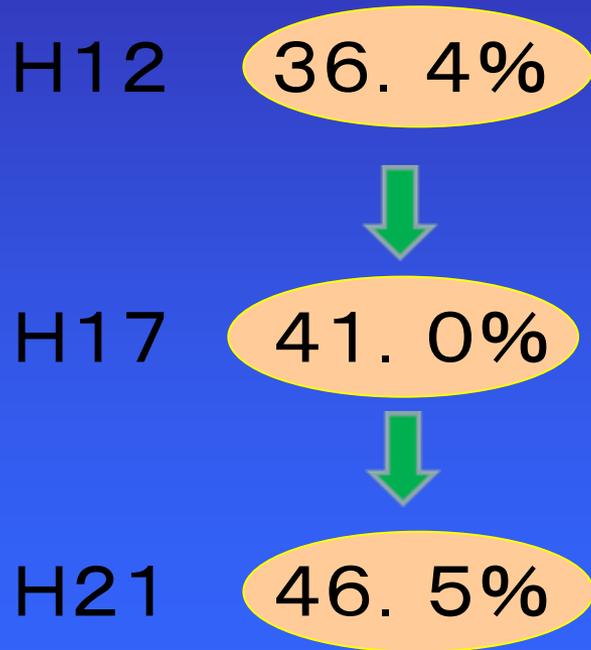
問題

$$50 + 150 \times 2 \quad (\text{国}: 65.9\%)$$

# 学習状況の経年比較②

理科

音の大小高低と波形(中学校1年)



問題例

弦の振動が図のときの音の大きさと高さは、どのようなになっていますか。  
(県)

○不登校者数(小・中学校の児童生徒千人あたり)

全国で一番少ない

※H21:本県8.5人、全国11.5人

○暴力行為の発生件数(小・中・高校の児童生徒千人あたり)

全国で二番目に少ない

※H21:本県0.7件、全国4.3件

# 少人数学級の効果

学校訪問等より

- 児童生徒が全体的に落ち着ける環境の保障
- 発言の機会の保障、自己表現の場の保障
- きめ細かなノート指導・コメント等が可能
- 濃厚な人間関係づくりのための環境の保障
- 活躍の場の保障と自治活動の促進

○児童生徒一人一人を大切にした指導と基礎・基本の定着

# 少人数指導の効果

- 子どもが個性を発揮して学ぶ
- 多様な指導形態や活動が可能
- 子どものわかり方を確認して授業を展開

教員にとって  
指導Ⅱ研修

## 4. その他の取組について

# ① 教育専門監 (H18~)

指導方法  
工夫改善  
定数

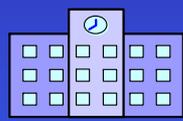
## 趣旨

教科指導に卓越した力を有する教諭の資質能力を複数の学校に活用し、学校の教育力を高める。



本務校

兼任校



兼任校



- 本務校及び兼務校での  
チーム・ティーチングによる授業実践
- 教育実践の紹介
- 市町村各種研修会等の講師
- 関係教育機関の要請への対応

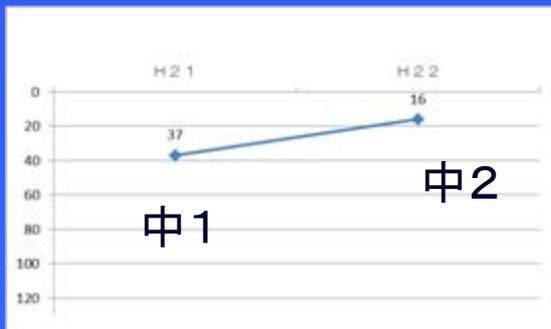
## 概要

## 成果

市町村数	専門監数	本務校数	兼任校数
14	25	25	61

A 中学校 (本務校)

B 小学校 (兼務校)



(順位)



(県学習状況調査)

教科: 国、算・数、理、英

## ②小学校まなび・ふれあい充実事業（H21～）

### 小規模小学校への支援

39,024千円  
(H23)

(県単)

#### 1 小学校の教科担任制のねらい

- 普通学級6～7学級の小学校へ臨時講師を1名加配
- 教科担任制を生かした教育課程の編成、指導方法の工夫改善



小学校教員 { ○子ども理解のプロ → ◎複数の目による子ども理解  
・教科指導のプロ → ○得意教科を生かした指導 }

小規模小学校  
の活性化

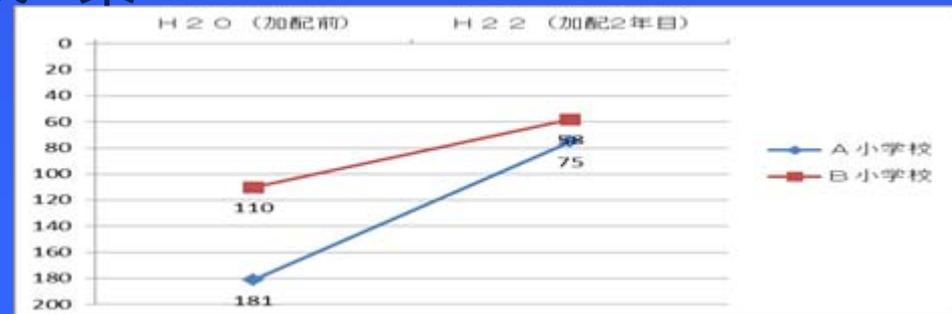
#### 2 教員1名配置によるメリット

\* 加配によって生み出された時間を活用して、他の教員も得意分野を生かした教科指導を担当する

#### 期待される効果

- ①学習意欲の向上と学習指導の充実  
→ 児童の興味・関心の喚起
- ②触れ合いの確保による児童理解の充実  
→ 児童や保護者の安心感や信頼感が増大
- ③教育課程の工夫による学校課題の解決
- ④小・中学校の円滑な接続

成果



(順位)

(県学習状況調査)

# ③特別支援教育の取組について

## ○人事交流(小・中学校⇔特別支援学校)

H14～18:1年間の交流→延べ125名(小・中・特支教諭)

H19:2年間の交流→延べ19名(〃)

H20～22:2年間の交流→延べ109名(〃)

## ○特別支援教育の教育専門監の配置

- ・ 養護学校へ4名配置、県内高等学校2校へ配置

## ○特別支援教育センターとしての学校の機能の充実

(H23)

通級指導教室設置校	主に言語障害対象	主にLD, ADHD対象
23校	16教室	18教室

特別支援教育アドバイザー

9人

## ○幼児児童生徒学校生活サポート事業

H16・H17:県単独

H18・H19:県半額補助

H20年度から市町村で

	H23	H22	H21	H20	H19	H18	H17	H16
配置校数	257	248	234	211	172	193	79	81
配置人員	513	454	346	289	184	193	79	81